

## 「自転車でゆく上高地(最終回) 夕暮れの穂高」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



私は高校生の時に山岳部に入っていた。穂高連峰の山々も、岳沢も、上高地から見える山のほとんどは、かつて一度は足下に踏んだ峰々である。涸沢(からさわ)のテン場(テント設営指定地)で見た、暮れゆく穂高連峰が忘れられない。上高地から見た穂高連峰は、その涸沢から見た山並みによく似ている。私は麓へ下りる県道の通行可能時刻(19時)ぎりぎりまで、上高地に留まって、暮れゆく穂高を眺めることにした。

太陽が西に傾くと、谷間から日かげになってゆく。その影が、尾根に向かって上がってゆく様子もよくわかる。しかし、頂きには、日没直前まで日が当たる。特に残雪の時期は山の立体感が際立ち、実に美しい。

最後に大正池が一望できる、県道のカーブに自転車を置き、湖畔まで降りて岩に腰かけた。鏡のように穂



高連峰を映す、暮れなずむ大正池を一時間も眺めていた。非常にすばらしい一日だった。



「暮れゆく穂高連峰と大正池」 水彩 C. Tanaka